第四回新城薪能

能組

とき　平成五年八月二十一日（土）
　　午後六時始
ところ　新城文化会館はなのき広場
　　雨天の場合は大ホール

入場無料

開会のことば　新城市文化協会会長　永田六兵衛

火入式　新城市議会議長　加藤実
　　新城市教育委員会教育長　中西光夫

喜　連吟　田村
　　鈴木富代　加藤佳子　荒川享子　永田聡子　水谷益子
　　鈴木芳子　川村直子　星野弘子　竹下京子　杉山斐子

喜　仕舞　老松　芳賀明子
　　猩々　太田温子

観　連吟　蟬丸
　　楠　菅　沼　鉱　江子　鈴木智美　杉浦淑子　坂口俊雅　徳升　塚田　犬森　相川　渥美　立松
　　楠　菅　沼　桃　光　江子　鈴木智美　浦口　升　塚田　森　川　北　楽　美　松
　　鉱　江子　杉浦淑子　坂口俊雅　徳升　塚田　犬森　相川　渥美　立松
　　良　緑　子　皆川幸　森悠利　犬塚　田　川　相　楽　美　良
　　子　緑　江　子　子　皆川幸　森悠利　犬塚　田　川　相　楽　美　良
　　江　子　子　皆川幸　森悠利　犬塚　田　川　相　楽　美　良
　　江子　皆川幸　森悠利　犬塚　田　川　相　楽　美　良
　　皆川幸　森悠利　犬塚　田　川　相　楽　美　良
　　森悠利　犬塚　田　川　相　楽　美　良
　　犬塚　田　川　相　楽　美　良
　　田　川　相　楽　美　良
　　川　相　楽　美　良
　　相　楽　美　良
　　楽　美　良
　　美　良
　　良

宝　仕舞　鶴亀　鈴木忍
　　田村（クセ）　松野平美加

地謡　松崎和夫　鳥居俊男　桜井盈附　猫田瑠二

ごあいさつ　新城市長　山本芳央

喜　連調　羽衣（クセ）
　　鈴木芳子　川村直子　永田聡子　水谷益子

喜　仕舞　田村（クセ）　星野弘子
　　湯谷　杉山斐子
　　葛城（キリ）　竹下京子

喜　仕舞　葵上　鈴木脩

和狂言　仁王　シテ　中山伸一

アド　小林常男
立衆　酒井宏
〃　西田好夫
〃　大原正巳
〃　加藤賢一
〃　権田重紘
某　松井平

子方　杉浦右

後シテ　今泉栄三
前シテ　森田收

喜能　船弁慶

ワキ　太田康弘
ワキツレ　鈴木崇史

大鼓　清水利高
小鼓　永田六兵衛
太鼓　中嶋康夫
笛　鹿取希世

間　畑中良雄

後見　粟谷浩之
水谷清

地謡　竹内三郎
田中洋二
鈴木肇
竹内省吾
粟谷明生
粟谷能夫
中村邦生

附祝言

（終了予定　九時頃）

主催　新城市文化協会

後援　新城市
新城市教育委員会
新城市観光協会

あらすじ

狂言

仁王（におう）

かけごとの好きな男、裏目に出て、家財は申すに及ばず妻子まで打ち込んで裸になってしまった。とても住居もならぬによって見えぬ国へ行こうと決心するが、日頃目をかけて下さるお方に暇乞に行く。行くあてもない男に上野で仁王になって賽銭をかせいだらよかろうと言って仁王に仕立ててやる。

能

船弁慶（ふなべんけい）

源義経は、平家追討に武功を立てますが、戦が終るとかえって兄頼朝から疑いをかけられ、追われる身となります。義経は弁慶や従者と共に都を出、摂津国（兵庫県）大物浦（だいもつのうら）（尼ヶ崎）から西国へ落ちようとします。静御前も義経を慕ってついて来ますが、弁慶は時節柄同行は似合わしくないから、都へ戻すように義経に進言し了承を得ます。弁慶は静を訪ね、義経の意向を伝言しますが、静は弁慶の計らいであろうと思い、義経に会って直接返事をするといいます。義経の前に来た静は帰京をいいわたされ従わざるをえず、泣き伏します。名残りの酒宴がひらかれ静は義経の不運を嘆きつつ別れの舞をまいます。やがて出発の時となり涙ながら一行を見送ります。（中入）

弁慶は出発をためらう義経を励まして船頭に出船を命じます。船が海上に出ると、にわかに風が変わり激しい波が押し寄せて来ます。船頭は必死に船をあやつりますが、吹き荒れた海上に西国で滅亡した平家一門の亡霊が現はれ、中でも平知盛（たいらのとももり）の怨霊は自分が沈んだように義経を海に沈めようと長刀を持って襲いかかって来ます。義経は少しも動ぜず戦いますが、弁慶は押し隔てて数珠をもんで祈禱します。祈られた亡霊は、しだいに遠ざかりついに見えなくなります。

薪能（たきぎのう）

この名称は夜になって薪をたいて、それを照明がわりに演能するところから来た名称ではない。もとは「薪の神事」などと称して新年に御薪を寺社に献進する儀式で、一種の春迎えの信仰行事であった。それに伴って行われる猿楽が「薪の猿楽」であった。奈良の「薪能」は奈良時代に起こった行事で、興福寺の修二会（しゅにえ）に鎮守の社から東西金堂へ行法のために薪を積む儀式であり、その時翁式の聖者が薪を負うてまうことが芸能化した。初めは寺に所属する呪師（しゅし）が司っていたが、後猿楽者が代行するようになった。能楽が大成後は金春座が責任者となり、他の座も参勤していたが、明治以降は中絶、戦後昭和二十一年復活、昭和二十五年京都薪能が平安神宮で催されて以来、各地で大衆野外能として流行するようになった。

新城に於ては新城文化会館が完成したのを契機に、平成二年第一回新城薪能が新城文化協会主催で催され大好評を得ました。富永神社の祭礼能とは別に、流派を問はず誰でも参加出来ることとなり、正に「能の里」を目指して参りたいと存じます。現在全国で二〇〇ヶ所程薪能が催されていますが、全部職分の先生方の演能であります。新城薪能だけが素人による演能であることが特徴であって、今後永い伝統を持つ祭礼能と共に、薪能を新しい伝統として守り発展させて参りたいと存じて居ります。今後とも皆様方のご支援をお願い致します。

謡・仕舞・囃子（笛、小鼓、大鼓、太鼓）・狂言のお稽古をなさりたい方はお気軽に文化協会事務局へお申し込み下さい。
それぞれの向きにお世話を致します。